



～もっと地域と もっと地域へ～

かがやくえがお

【学校教育目標】夢をもち、ふるさとを愛し、自ら未来を切り拓く児童の育成

第18号

令和8年 7月17日
長崎市立小島小学校
校長 桐山 充晴

あちらこちらでセミの声大きく響き、盛夏の到来を告げています。先日も、登校途中に見付けた「羽化したばかりのセミ」「クワガタ」や、「セミの抜け殻」を手に入れている子供がいました。休み時間には、トンボを追いかけたりセミを捕まえようとしていたりしていました。昆虫ならずとも子供たちも楽しみにしている夏がやってきます。



一学期終了 夏休み

本日をもちまして、70日（1年生は68日）間の一学期が終わりました。明日からはいよいよ45日間の夏休みです。

私たち教職員は、子供たち一人一人の違う頑張りや伸びを認め、励まし続けてきました。そして、それを子供たち自身が、しっかりと認識してくれることを信じて伝えてきました。一学期間に備えた力を糧に充実した夏休みを過ごしてほしいと願うばかりです。

保護者の皆様を中心に地域の皆様、4月からの4か月間、大変お世話になりました。お陰様で、4月の始業式・入学式から本日の終業式まで、子供たちが大過なく過ごせたことをうれしく思い、皆様方に感謝の気持ちでいっぱいです。事件事故の発生もなくほっとしています。ただ、個別には、心配になること（例えば、骨折や心の不調など）がありました。夏休み中も心配は尽きませんが、命を大切にして、9月の始業式に元気に登校してほしいと願っています。

今後も引き続き、長い夏休み、そして2学期からの子供たちを見守ってください。

一学期の成果

さて、この4か月、お子様の成長はどのようなものがあったでしょうか。今年度も「**通知表**」はありません（10月配付）。その代わり、子供たちにも保護者の皆様にも個人面談を通して、生活面での頑張りや心の成長（見えない学力）、学びの様子（見える学力）の評価を伝えさせていただきました。さらに、今年度は「i-check（アイチェック）」という総合質問紙調査も実施しています。これは、子供一人一人に対して、「規範意識」や「自己肯定感」などの視点で、子供たちの個性や心の有り様を捉えるための調査です。保護者面談の折にお渡ししたと思います。

いずれにしても、頑張らなかった子供は誰一人いません。まずは、「一学期、よく頑張ったね」と、その子なりに精一杯過ごしたことをねぎらうような声掛けをしていただくと良いと思います。結果ではなく、「プロセスに注目する」そんな声掛けが、子供の**自己肯定感**を育むのです。

もしも、思うような結果や成長が見られない場合であっても、頭ごなしに叱ってしまうと、子供は先生や親から叱られたくないという外発的な動機で勉強するようになり、子供が本来もっている「もっと知りたい」「学ぶことは楽しい」という気持ちは遠のく一方になってしまいます。それよりも、「どんなことをやっているの？」などと声を掛けながら、一緒に向き合っていただければと思います。



目標を持ってチャレンジ

始業式のときに「目標や夢をもってほしい」、今年のテーマを「考動」として「考えて動く」ようにしてほしいという願いを伝えていました。人に言われて動くのではなく、自分で考えて行うというものです。先生から言われたからやる、友達がやっているからやる、ということではなく、今は、どうすればよいか、その時その時に考えて、考（行）動できる子供たちに育ててほしいとの思いからです。

一学期を振り返ってみると、御家庭の支えもあり、少しずつですが、挨拶や活動の準備など自分で考えることが増えてきているように感じます。

夏休みも、「考動」を継続し、自信をもって様々なことに挑戦してほしいと思います。

夏こそチャンス!! その①



長い夏休みは、自分で勉強できる子になるための基礎習慣を付けるチャンスです。

「親に言われずとも、自分から勉強できる子になってほしい。」そう願う保護者の方は多いでしょう。しかし、多くのお子さんは急に自ら進んで勉強することはありません。だからこそ「習慣付け」がとても大切です。

小学校のころから、歯磨きや入浴と同じように、勉強を毎日の習慣に組み込むことができれば、それは大きな強みとなります。最初は5分、10分で大丈夫。小学校入学後からそうやって少しずつ習慣化できれば、成長とともに自走して勉強できるようになります。ただし、勉強の習慣化は、比較的スムーズに実現できる子と、そうでない子に分かれます。その原因は、その子にとって「机に向かう」という学習スタイルが向いていないからかもしれません。また、タイミングも重要です。

(スタイル、タイミングについては、その②で紹介します。)

我が子がスムーズに学習に取り組めるスタイルが分かれば、潜在的にもっている力を大きく引き出してあげることができるはずです。「どうも勉強に集中できていない」と感じる場合には、視点を変え、今までとは違ったスタイルやタイミングを試してみてはいかがでしょうか。兄弟姉妹でも、合う学習スタイルが同じとは限りません。夏休みは、比較的小児に時間の余裕がある分、試行錯誤にぴったりの期間です。

その子に合ったスタイルを見つけ、学習習慣を身に付けることは、親が子供にしてあげられる最大のギフトだといえるのかもしれませんが。夏休みの宿題は計画を立てる練習にぴったりです。自学できるようになるためのステップとして、最初にするべきは学習習慣の定着と、子供に合った学習スタイルの確立です。これらをベースに、さらに「計画を立てる」ことができるようになれば、一生を通じて学び続けられる姿勢が身に付き、その子にとっての生涯の財産となると思います



夏こそチャンス!! その②

ここで言う「スタイル」というのは、「場所ややり方」のことです。場所については、一時期流行った(?)「リビング学習」など、環境を変えるということです。また、賛否あるのですが「ながら学習」も子供にとっては調子が良く、頭に入ることもあるようです。

例えば、歌や音楽が好きな子は、音読したりリズムをつけたりしながら声に出すことで学習がうまくなる場合があり、運動が好きな子は、椅子をバランスボールにするなど、体を動かしながら勉強するとはかどることもあります。人と関わるのが好きな子は、誰かと一緒に作業したほうが頭に入りやすいため、隣に座って一緒に取り組んであげる、といった方法などがあります。



タイミングはというと、「勉強が終わってから、好きなことをやる」という順番が理想的と思われがちですが、これも子供によって集中できるタイミングは異なり、一概に「先に勉強」が良いとは言えないようです。思い切り好きなことをして、満たされた後だと集中できるタイプの子も意外と多く、そのような場合は学校から帰宅したら先に自由時間、勉強は翌朝早く起きてやるという順番の方がはかどるのかもしれません。

こんなふうに、「スタイル」や「タイミング」を試行錯誤しながら、自分に合ったタイプを見つけることができるといいですね。

さらに、「計画を立てること」を自分でできるようにするために、初めは親の手助けが不可欠です。学校から出る夏休みの宿題のスケジュールを親子で考えて欲しいと思います。ただし、全てを親が決めてしまっては子供のやる気を奪います。大事なポイントは、子供に主導権を握らせて、「自分で計画を立てた」と実感できるようにしてください。

「言うとおりにしなさい」という一方的な“You”メッセージではなく、「パパ(ママ)は～と思うけど、〇〇はどう思う?」といった“I”メッセージで問い掛けながら実行可能な計画になるように助言してあげるとよいと思います。

